

十勝連携地域 政策展開方針

～ 売り込む・呼び込む・生きる～
高速交通ネットワークで結ばれる道東の拠点
「十勝」



十 勝 地 域

平成20年10月



帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、
更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、
浦幌町

目 次

基本的な考え方 (p 1)

地域の現状・課題 (p 4)

地域のめざす姿 (p 7)

主な施策の展開方向 (p 9)

- ・北海道横断自動車道の開通に向けた地域づくり
- ・たくましい農林水産業の展開
- ・地球環境に配慮した持続的社会的形成
- ・地域資源をネットワーク化した観光の振興
- ・創造性あふれる産業の推進
- ・安全・安心でいきいき暮らせる地域社会的形成
- ・暮らしや産業を支える交通・情報ネットワークの形成

地域重点プロジェクト (p 1 3)

- ・とかち「農」ブランドパワーUPプロジェクト(十勝連携地域)
- ・「食の王国とかち」観光プロジェクト(十勝連携地域)
- ・美しくエコなとかちづくりプロジェクト(十勝連携地域)

附属資料 (p 2 3)

基本的な考え方

政策展開方針の位置づけ

(新・北海道総合計画)

- ・ 道の総合計画は長期的視点に立って道政の基本的な方向を総合的に示す計画であり、平成20年度から概ね10年を計画期間とする新・北海道総合計画(ほっかいどう未来創造プラン)がスタートしました。
- ・ 新・北海道総合計画はビジョンと戦略を示すことに重きを置き、具体的な推進方策は総合計画とは別に策定する分野別の計画(特定分野別計画)等により推進することとしています。

(政策展開方針の役割)

- ・ 「政策展開方針」は、この新・北海道総合計画に基づき、地域の特性や特色に応じて地域に根ざした政策を展開するため、総合計画に示している連携地域ごとに、市町村や地域の関係者などの参画を得ながら支庁が策定するものであり、総合計画を推進する手立ての一つとなるものです。

(政策展開方針と特定分野別計画の連携)

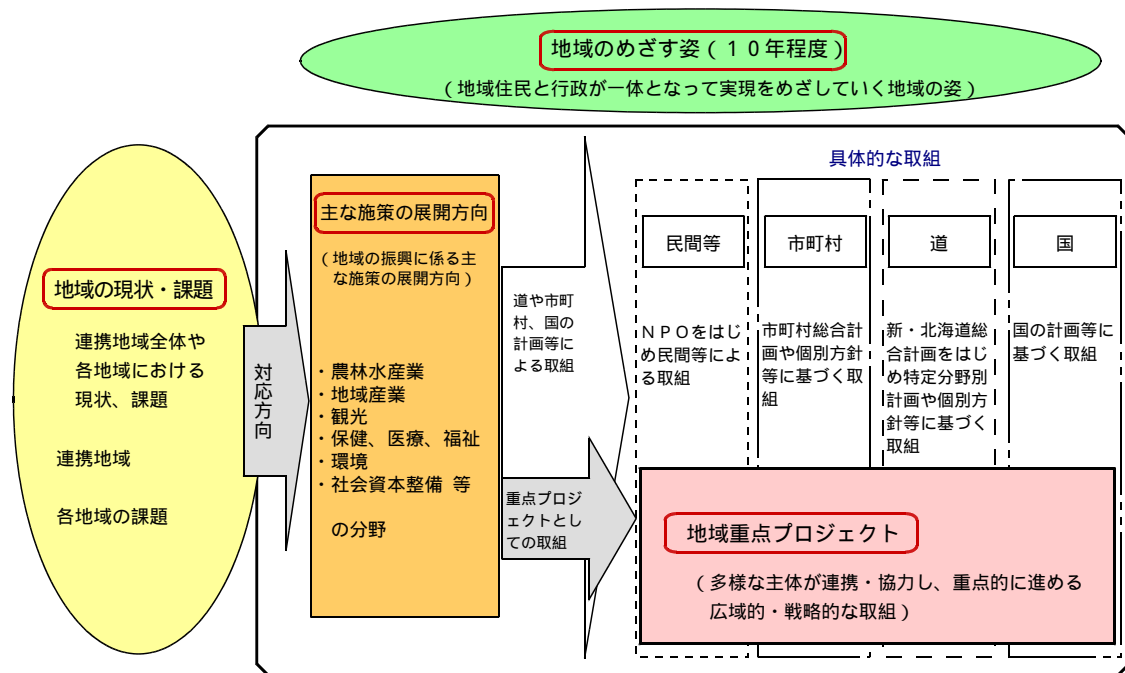
- ・ 地域においては、産業、保健・医療・福祉、環境、教育などの分野ごとの政策を推進する特定分野別計画と政策展開方針とが相まって、地域に根ざした政策を展開します。

政策展開方針の枠組み

(構成)

| | |
|------------|---|
| 地域の現状・課題 | 連携地域全体や各地域における現状、課題を記述しています。 |
| 地域のめざす姿 | 今後10年程度を展望し、地域住民と行政が一体となって実現をめざしていく地域の姿を描いています。 |
| 主な施策の展開方向 | 産業、暮らし、社会資本など、地域の振興に係る主な施策展開の方向性を示しています。 |
| 地域重点プロジェクト | 地域のめざす姿の実現に向けて、多様な主体が連携・協力し、重点的に進める広域的・戦略的な取組を示しています。 |

(期間) 5年程度



政策展開方針の推進

(多様な主体が協働した地域づくり)

- ・ 新・北海道総合計画では、個性豊かで活力に満ちた持続可能な地域社会の実現に向け、「地域の多様な主体がともに考え、行動する」ことを基本に、「連携と相互補完」の考え方に立って地域づくりを進めることとしています。
- ・ こうした考え方にに基づき、方針の策定・推進のため、支庁と開発建設部が共同で市町村や地域の関係者の参画を得て、支庁所管区域ごとの「地域づくり連携会議」や連携地域ごとの「地域づくり連携会議・合同会議」を設置し、地域づくりの方向について検討するとともに、プロジェクトの推進に向け、多様な主体と連携・協働して地域づくりを進めます。

(地域重点プロジェクトの推進)

- ・ プロジェクトに関わる各主体は、それぞれの役割に応じて自ら関連する取組を進めるとともに、国、道、市町村等の施策や制度を活用するなどしてプロジェクトを推進します。
- ・ プロジェクトについては、毎年度、推進状況等を把握し、必要に応じ事業内容の見直しを行うとともに、新たなプロジェクトに取り組むこととなった場合などには状況変化に弾力的に対応することとします。

(道における施策等への反映)

- ・ 支庁が地域の意見等を踏まえながら主な施策・事業等を取りまとめた政策提案等については、知事を本部長とし、各部長、各支庁長等で構成する「北海道地域づくり推進本部」(平成20年4月28日設置)等において、全庁横断的な調整を行い、その実現に努めます。
- ・ 道においては、政策提案等について、限られた財源の効果的な活用が図られるよう「選択と集中」の視点に立って、毎年度、政策検討や予算編成過程を通じて検討を行い、道の施策や予算等への反映を図るとともに、地域政策総合補助金や地域政策推進事業など地域づくり支援策を効果的に活用しプロジェクトを推進します。

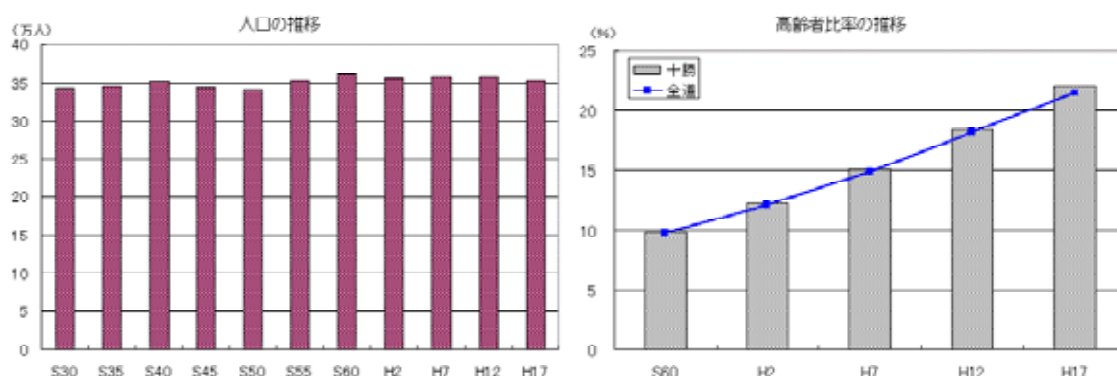
地域の現状・課題

(連携地域)

十勝連携地域は1市16町2村で構成され、面積は10,831km²で全道の13.0%を占めています。

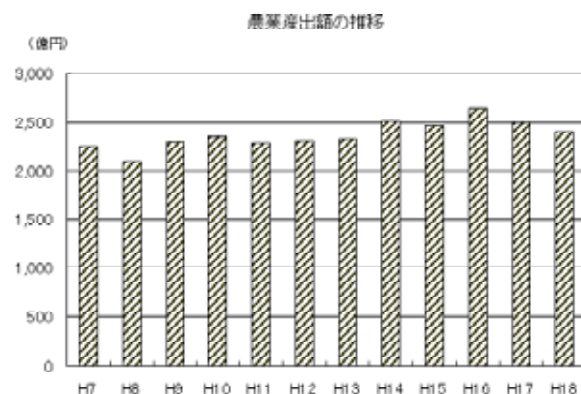
人口(H17年国勢調査)は、35万4千人で全道の6.3%に当たります。昭和60年(国勢調査)の36万2千人をピークに減少傾向にあります。

高齢者比率(H17年国勢調査)は22.0%で、ほぼ全道平均(21.4%)と同じですが、平成7年に比べると、6.9ポイント増加しています。



大規模な畑作と酪農を主体とした農業を中心に、カラマツを主体とした林業・木材産業、サケマス、シシャモ、スケトウダラなどの漁業、農畜産加工を中心とした製造業、温泉やアウトドア体験、食のイベントなどを生かした観光事業などが展開されています。

農業産出額(H18生産農業所得統計)は約2,402億円(全道の22.8%)、農家戸数(2005農林業センサス)は6,743戸(全道の11.4%)となっており、平成7年と比べ、農業産出額では、6.8%増加(全道5.5%減)していますが、農家戸数は22.3%減少(全道27.0%減)しています。麦類、豆類、馬鈴しょ、てん菜、生乳などは全道一の生産量を誇っていますが、輸入農産物の増加などにより需給が緩和し、価格が低迷するとともに、燃油や飼肥料価格の高騰が経営を圧迫するなど、厳しい経営環境となっています。



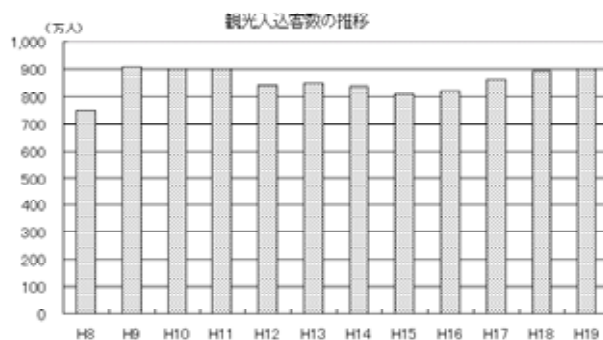
森林面積(H18北海道林業統計)は約693千haで、全道森林面積の12.5%を占めており、カラマツを中心に、北海道の主要な木材生産地域となっています。近年は、伐採量の増加に対し、植林が追いつかない状況にあるほか、カラマツによる製品の高付加価値化が課題となっています。

漁業生産高(H18北海道水産現勢)は、数量では約4万トン(全道の3.0%)、金額は約68億円(全道の2.4%)で、平成7年と比べると、イワシの漁獲量の増大により数量が129%の大幅増(全道20.8%減)、金額でも14.5%の増加(全道は6.5%減)となっています。近年は、毛ガニやシシャモなどの資源管理型漁業やマツカワなどの栽培漁業が進められていますが、燃油高騰など漁業経費の増加により、厳しい経営状況となっています。

製造品出荷額等(H18工業統計調査)は、約3,696億円(全道の6.4%)で、平成7年とほぼ同額(全道3.6%減)となっています。農産物を利用した食料品製造業や農業機械製造業が主となっていますが、地域企業を取り巻く経営環境は厳しく、高付加価値化や販路拡大などが求められています。

小売業商品販売額(H19商業統計調査(速報値))は、約4,440億円(全道の7.2%)で、平成6年と比べると、13.6%の減(全道14.0%減)となっています。中心市街地は、消費者のライフスタイルの変化やニーズの多様化、郊外型大型店の進出などにより、集客力が低下しています。

観光入込客数(H19北海道観光入込客数調査)は、約899万人(全道の6.4%)で、平成8年と比べると19.8%増加(全道9.2%増)しており、ピーク時の平成9年とほぼ同数となっています。広大な田園風景と大雪山系や日高山脈など周辺の雄大な景観に恵まれていますが、観光資源が点在しており、日帰りや通過型観光が主体で、夏季に集中するなどの課題を抱えています。



人口10万人当たりの医師数(H18北海道保健統計年報)は160.0人で、全道平均219.7人を下回っており、郡部における産婦人科や精神科の医師不足など、地域間格差の対応が課題となっています。

道路は、帯広市を中心とした広域分散型の当地域において重要な要素となっており、空港・港湾とのアクセス強化や、道央や釧路・根室、オホーツクとのネットワーク形成の観点から、高速交通ネットワークの整備が求められています。

とかち帯広空港は、東京、大阪（季節運航）、名古屋と結ばれており、産業や観光などの面で大きな役割を果たしており、利用者の利便性の向上など、さらなる機能の拡充が求められています。

重要港湾である十勝港は、「農業王国十勝を支える港」として重要な役割を担っています。

地域のめざす姿

10年程度を展望した地域のめざす姿

*「地域のめざす姿」は、地域住民と行政が一体となって実現をめざしていく、将来のあるべき地域の姿を記述したものです。

～売り込む・呼び込む・生きる～
高速交通ネットワークで結ばれる道東の拠点「十勝」

北海道横断自動車道開通などにより進む道東の拠点化

北海道横断自動車道夕張～トマム間の開通により十勝が道央と高規格幹線道路で結ばれることをはじめ、帯広・広尾自動車道の整備や帯広空港の機能拡充、十勝港の整備などが進められています。札幌圏・釧路圏・北見圏などの道内はもとより、道外・海外とも高速交通ネットワークで結ばれることで、物流や観光等の交流の拡大や、農業を中心とした産業の集積など、道東における拠点化が進んでいます。

安全・安心な地域ブランドが確立

安全・安心で高品質といった消費者ニーズにこたえるブランド力の高い農林水産物の生産が増加するとともに、研究機関を核とした技術開発や商品開発が進められ、付加価値の高い食品工業の振興が図られています。

食料自給率の向上と国際競争力の強化

地域の農水産物の生産力が強化され、日本の食料自給率の向上に寄与しています。国際競争力に対抗し得る地場産品の開発により、農水産品の輸出を促進し、国際競争力の強化が図られています。

豊富な地域資源などを生かした産業が展開

大学や研究機関・企業などの産学官連携により、豊富な地域資源や優秀な人材、蓄積された技術・研究機能などを活用した高機能性新素材の開発などの新事業の創出が図られ、ものづくり産業など経済波及効果の高い企業立地が進展しています。

豊かな食と自然を生かした滞在周遊型観光地づくりが進展

地元の新鮮な農水産物を使った食の提供や恵まれた自然や体験施設、温泉などを生かした各種観光メニューの開発などにより、観光客がリピーターとして再び訪れる、滞在周遊型観光地が形成されています。

住民参加型エコ活動やバイオマスの利活用が進展

環境に対する住民の積極的な関わりにより、地域が一体となって環境負荷低減に向けて取り組んでいるほか、豊富なバイオマスを有する地域特性を生かし、バイオエタノールやバイオガス・バイオディーゼル燃料・木質ペレット等の新しいエネルギーの利用が進められ、それに関連した新産業の創出が図られています。

誰もが安心していきいきと暮らせる地域づくりが着実に進展

保健・医療・福祉体制が整備され、高齢者や障がい者を含めて誰もが健康で安心して暮らすことができるとともに、社会全体で子育てをサポートする環境づくりが進んでいます。

また、スピードスケートを中心とした冬季スポーツの拠点としての役割を担っています。

地震や火山・津波などの自然災害による被害を防止・軽減するため、総合的な防災体制の整備など危機管理体制が強化されています。

主な施策の展開方向

今後5年程度における主な施策展開の基本方向

北海道横断自動車道の開通に向けた地域づくり

(北海道横断自動車道の開通に向けた地域づくり)

- ・ 平成23年度に予定されている北海道横断自動車道夕張～トマム間の開通に伴う道央とのアクセス向上といったメリットを生かした、交流人口の拡大や地域の産業の活性化に向けた取組を地域全体で推進します。

たくましい農林水産業の展開

(基幹産業である農業の充実・強化)

- ・ 担い手の減少や高齢化、食の安全・安心に対する消費者の関心の高まり、さらには国際農業交渉の進展や国の新たな農政改革など、農業を取り巻く情勢の変化に対応するため、生産基盤の整備や、新規就農者も含めた担い手への支援の集中などによる経営体質の強化、環境・農村景観の保全など農業・農村が安定的に発展するための取組を推進します。

(食品等の安全・安心の確保)

- ・ 安全・安心で良質な食料を消費者の理解が得られる価格で安定的に生産・提供していけるよう、生産性や品質の向上を可能にする新たな技術の開発・普及に加え、環境への負荷の少ないクリーン農業や有機農業の推進、家畜ふん尿や廃プラスチックの適正処理など環境と調和した持続可能な農業生産活動を推進します。

(農産物の付加価値向上)

- ・ 地域の特色ある資源を生かした農産加工や直接販売、ファームイン、ファームレストランなどアグリビジネスの取組を進めるとともに、食品工業・外食産業などの関連産業との連携強化や雪氷エネルギーの利用などによる農産物の付加価値の向上や、個性豊かなブランドづくりを促進するとともに、販路拡大を通して国内外の競争力を強化します。

(林業・木材産業の振興と森林バイオマスエネルギーの利用促進)

- ・ 十勝の代表樹種であるカラマツなどを通じて、林業、木材産業の振興を図るため、伐採跡地への造林など木材を安定的に供給できる資源循環型の森林づくりを進めます。また、林業の担い手の育成・確保を図るため支援を行うとともに、建築用材などの製品生産へシフトするため、民間事業者と森林組合の連携した取組や森林組合の合併による工場再編整備を推進します。
- ・ 森林バイオマスエネルギー利用を一層推進するため、ペレットストーブの導入促進など、需要拡大を図る普及啓発活動を推進します。

(活力ある水産業の振興と水産物のブランド化)

- ・ 活力ある水産業・漁村の振興を図るため、海域特性に適したマツカワ(カレイ)などの魚種の栽培漁業の推進や、資源状況に見合った漁獲量の設定など資源管理型漁業を確立するとともに、担い手の確保・育成のための取組を支援します。
- ・ 十勝産シシャモのブランド化など地域水産物の付加価値向上や需要拡大の取組を推進するとともに、消費者の安全安心のニーズにこたえた産地での衛生管理対策を促進します。

地球環境に配慮した持続的社会的形成

(地域から取り組む地球環境の保全)

- ・ 地球温暖化などの環境問題が世界規模で顕在化していることから、環境に負荷をかけないライフスタイルを地域に定着させるための住民参加型の環境保全活動を推進します。
- ・ 太陽光エネルギーなどの新エネルギーの利用促進や省エネルギーの取組を促進します。

(環境に配慮した経済活動の推進)

- ・ 環境と経済が両立する社会の実現を図るため、循環型農業の推進や、バイオマスの利活用による新たな産業の創出などの取組を推進します。

地域資源をネットワーク化した観光の振興

(「食」観光の仕組みづくり)

- ・ 各業界団体が連携し、お菓子・豚丼・チーズなどを盛り込んだドライブマップによるスタンプラリーの実施など、「食」による観光の仕組みづくりを推進します。

(豊かな観光資源のネットワーク化)

- ・ 豊富な農水産物を生かした多彩な「食」の提供を核として、北海道遺産やアウトドア・農業体験施設、温泉などの観光資源をネットワーク化し、複合的・広域的な観光ルートを開発します。

(観光情報の発信とホスピタリティ)

- ・ 台湾などの外国人観光客やドライバーなどが快適に周遊できるよう、多言語による案内看板等やパンフレットの充実、観光ガイドの配置などホスピタリティを高め、国内外でのプロモーション活動やエージェントへの売り込みを展開し、十勝の魅力を発信します。

(地域交流の促進)

- ・ 移住や二地域居住に対する志向が高まる中、十勝の暮らしや気候、自然などに関する情報の発信や体験居住などの受入体制の整備を促進します。

創造性あふれる産業の推進

(食品工業の振興)

- ・ 地域の試験研究機関を核として技術開発や商品開発などを進め、豊富な地域の農水産資源を活用した食品工業を振興します。

(地域農産物を活用した新事業の創出)

- ・ 産学官の共同研究を推進し、地域の農産物を活用した高機能性新素材・食品の開発などを進め、新事業を創出します。

(ものづくり産業の立地促進)

- ・ 高速交通体系の整備の進展や十勝に集積する試験研究機能などを生かした、ものづくり産業など経済波及効果の高い企業立地を促進するとともに、航空宇宙産業の誘致・形成に向けた取組を促進します。

(建設業の経営改革の促進)

- ・ 建設業の経営体質強化をはじめ、農作業の受託事業や体験型の観光農園の展開、BDF製造など新分野進出先での定着を図るためのフォローアップに努めるとともに、地域の特性を生かした新分野進出・経営多角化に向けた取組を促進します。

安全・安心でいきいき暮らせる地域社会の形成

(安心していきいき暮らせる地域づくり)

- ・ 地域の中核で高度な医療を担う地方・地域センター病院の機能の充実を図るとともに、医療機関相互の機能分担や保健・医療・福祉分野の連携により、適切なサービスが提供できる地域ケア体制を整備します。
- ・ 地域全体で子育てを支援する環境の充実やライフステージにあった健康づくり運動、地域活動を支える人材育成などにより、少子高齢化や人口減少に対応したコミュニティづくり、地域づくりを推進します。
- ・ スピードスケートを中心とした冬季スポーツの拠点づくりを推進します。

(中心市街地の活性化)

- ・ まちづくりと連動した魅力ある商店街づくりなど、中心市街地の活性化に向けた地域の主体的取組を促進します。

(災害に強いまちづくり)

- ・ 雌阿寒岳火山噴火警戒避難対策事業をはじめ砂防・治山事業の充実など防災体制の構築に努めるとともに、治水や海岸事業などによる国土保全を着実に推進します。
- ・ 消防団・自主防災組織の充実や実践的な防災訓練の実施など地域防災力を強化します。

暮らしや産業を支える交通・情報ネットワークの形成

(交通ネットワークの整備促進)

- ・ 企業立地の促進や交流人口の増加、物流の向上・効率化などを図り、地域の産業や暮らしを支える交通ネットワークを形成するため、北海道横断自動車道、帯広・広尾自動車道などの道路整備の促進、帯広空港の機能拡充、十勝港の整備促進を図るとともに、地域における日常生活を支えるバスなどの地域交通を確保します。

(情報ネットワークの形成)

- ・ ブロードバンドの世帯普及率の拡大のほか、地上デジタル放送への移行に伴うテレビの難視聴世帯の解消など情報格差のない地域づくりを推進します。

